科目ナンバリング	U-LAS02 20030 LJ37						
授業科目名 <英訳>	言語構造機能論 The Structures and Functions of Language			担当者所属 職名・氏名	人間・環境学研究科 教授　守田　貴弘		
群	人文・社会科学科目群	分野(分類)	芸術・文学・言語(各論)	使用言語	日本語		
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義（対面授業科目）
開講年度・開講期	2024・前期	曜時限	木3	配当学年	2回生以上	対象学生	全学向

（総合人間学部の学生は，全学共通科目として履修登録できません。所属部局で履修登録してください。）

[授業の概要・目的]

構造・機能相関論の観点から，人間言語の特質について考察する．特に，意図を共有する手段としての指示詞や各種ダイクシス表現 (時間，空間，人称) について考える．また，具体的な言語現象を理論的に分析する手法についても学ぶ.

[到達目標]

・個別の言語現象に対する興味・関心を養う.
・無意識で使い分けている言語表現の背後にどのような論理がはたらいているのか考える力を身につける.
・言語学的に主張を論証するための手続きが理解できる.

[授業計画と内容]

以下のテーマについて，それぞれ2ー3週で講義する．各項目に充てる時間数は履修者の理解度を見ながら調整する.

(1) 何のために言語は存在するのか
(2) 習得可能性と表現力の相関
(3) 事例1：さまざまな言語における指示詞
(4) 事例2：さまざまな言語におけるダイクシス表現
(5) 事例3：さまざまな言語における人称表現

授業はフィードバックを含め全15回である.

[履修要件]

言語科学I，IIなどの入門科目を履修していることが望ましい.

[成績評価の方法・観点]

授業期間中の3, 4回の小レポート50%および定期試験50%.
いずれにおいても講義内容を理解した上で，自らの考えを言語学的に論証する力で評価する.

[教科書]

使用しない
ときどき資料提示のためにスライドを使用するが，基本的には板書のみで講義を行う.

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

毎回の講義内容を復習し不明点は次回に質問すること.

[その他（オフィスアワー等）]

一方通行の知識の伝授を目的とするものではなく，学生との対話によって授業はどのように展開するか未知の部分があります．積極的な発言を歓迎します.